

# 浄土真宗本願寺派婦人会だより

平成12年9月 第9号

## 東本願寺派婦人会信条

「お念仏と共に心豊かな家庭生活をいたしましょう。」  
「寛容（柔和忍辱）と感謝（和顔愛語）の心で和やかな社会を築きましょう。」  
「未来を担う子供達に仏さまと生きる喜びを伝えましょう。」

## お盆法要に思う

8月13日お盆初日、昨夜から降り続く雨にもかかわらず、大勢の方々がお参りに来られ、母（故人）の墓前に詣られる皆様の顔は、とても良いお顔をしてくれました。また、16日の法要には本堂に入りきれないほど、大勢の方が参られ、住職様の法話に耳を傾けておられました。

その法話の中から、お釈迦様の十大弟子のお一人“神通力第一”<sup>じんつうりきだいいち</sup>と言われた目連尊者<sup>もくれんそんじゃ</sup>が、自分を可愛がって育ててくれた亡き母を偲び、今はどうしておられるだろうと探してみると、母は餓鬼道でもがき苦しんでおられました。目連尊者は母を救うべく食べ物を捧げますが、母がそれを手に取ろうとするとパッと炎に変わり、食べることができません。自分の力で助けられない目連尊者は、お釈迦様にご相談なさいました。するとお釈迦様は、「母に施すのではない。安居（雨期三ヶ月の修行）を終え、一同に集まった僧すべてに施し、願うならば、七代にわたる父母も餓鬼道の苦しみを離れて福德をうることが出来るであろう。」と説かれました。

さて、皆様はどのように味わっていただけましたでしょうか？11月には報恩講があります。その時また楽しみに法話を聴聞させていただきます。

なつかしく  
母の姿を偲ぶれば  
聴聞せよの  
あつきさいそく  
住職



## 読者の広場

先頃、ご住職様は岐阜県と富山県の合掌村をご旅行されたとのことでした。ここでは冬に4メートル程も雪が積もり、人々の助け合っでの生活ぶりや、お寺の話をして下さいました。その後、私はハワイ島に行つて参りました。

島内観光に出たときに地元の人々が寺町通りと呼ぶ一画にある浄土真宗本願寺派のお寺を車窓から拝見いたしました。白くて立派なお寺が日本から遠く離れたこのハワイの地に建っていることにビックリしました。ガイドさんのお話では、昔、農家の二男三男の方々が、一旗あげることを夢見て、また、家族への仕送りのためにとサトウキビ畑の労働者と

してこの地に渡つたそうです。

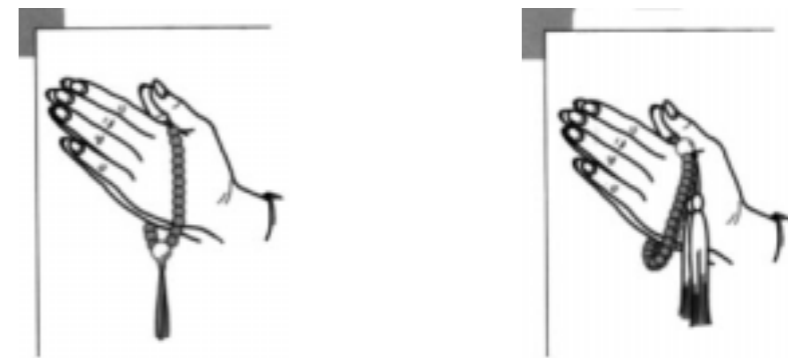
厳しい労働を覚悟してきたものの、人間扱いされない想像以上に過酷な生活で、契約にしばられ帰ることもままならず、お念仏を心の支えにここに集まり皆で励まし合つたのでしょうか。

不運にも病に倒れ、望郷の念にかられながら亡くなつたたくさんの方々のお墓は、なつかしい日本に向かつて建てられているとのこと。思わず胸が熱くなりました。

まじめに過酷な血の滲むような努力をされた日本人の方々のご恩と、ご冥福を念じながら帰つて参りました。

穴吹 トヨ

合掌の心 一念珠を持ちましょう



一輪念珠の場合

二輪念珠の場合

合掌は仏教の礼拝作法であります。それは仏様に帰依する心が身体的行為として外に現れたという信仰における具体的なかたちでの第一歩です。いつの世も人間というものは欲張りなもので、何か見返りがなくなかなか満足しないものです。神社やお寺へお参りし、願い通りになると、神さま、仏さまはどこかに忘れてしまい、逆に願いが叶わなければ、「お賽銭を納めたのに」などと勝手なことを言います。

浄土真宗において、仏様の前で合掌しお念仏を称えると言うことは、我が身の姿をはっきりと自覚させられることです。そしてそのような自覚が持てれば、そこから努力し精進していけるわけです。自分の姿を自覚できない人に限って、自分の失敗を他人のせいにしてたり、八つ当たりしたりするものです。本当の自分を見つめ直し、見返りを要求するような取引の心を持つことのない、それが本当の仏さまを拝む心でありましょう。仏さまのお心にお任せします、という帰依の心の現れが合掌となるのです。

蓮如上人五百回忌御遠忌記念「お念仏の道」より抜粋。

## 編集後記

婦人会便りご愛読下さいまして有り難うございます。また、投稿にご協力下さいましたこと、感謝しております。引き続き読者の皆様からのご意見、ご感想、俳句短歌など、どのようなものでも結構です。下記宛にご協力の程よろしく願いいたします。

高島美智枝 電話 042-752-3870